

写真1 市尾墓山古墳の横穴式石室 と家形石棺 (転載許可:高取町教育委員会)

と言えます。

は、先代の武烈天皇に子がなかった遠い血筋の人物が天皇に即位したの 21代雄略天皇の「やりすぎ」が指摘 の不安定さを生み出した要因として、 統が途切れがちになっています。 も5世紀末頃はたびたび天皇家の系 ためと記しますが、ここに至るまで 15代応神天皇の5世の孫で北陸地方 に住んでいたとされます。 これほど

「本書紀によると26代継体天皇は

出其の四十一出

古墳時代

巨勢(許勢)氏の 継体天皇の擁立

文化財課 **2**60-1608

市尾墓山古墳の横穴式石室

(『市尾墓山古墳』 1984年、高取町教委ほか、から、一部改変)

鹿鹿火、そして大臣許勢男人でした。 ままないとはあるなど。 されるのが大連大伴金村、大連物部でしょうが、その嫌立に尽力したとでしょうが、その嫌立に尽力したと 排除して即位し専制を強化しますが、た葛城氏のみならず、多くの皇族を うかたちで現れている、 書紀にはそれが皇統の不安定さとい されています。 皇の即位には当然反発もあったこと その反動がこの時期の混乱を招き 后とすることで正統性が保証された さて、 聞くべき意見と思います。 これほど遠い血筋の継体天 雄略天皇は既に述べ というので

す。

と考えられており、 滑り込ませて石棺の身に乗せるため 造となっているといえるでしょう。 れることはありません。 ただ、この構造は後続墳には継承さ

と言えるでしょう。続日本紀では巨ますので、確かにその可能性は高い 形古墳の出現という条件が揃ってい 築造時期のほか巨勢谷という立地条 がしのばれます。 被葬者の生前における権勢の大きさ 具)など煌びやかなものが目立ち、 装馬具、金銅装胡籙 を許勢男人に当てています。 河上邦彦さんはこの古墳の被葬者 副葬品には鞍をはじめとする金銅 そしてこの地域で画期となる大 (矢を入れる道 古墳の

の市尾墓山古墳です。後円部に構築れたのが墳長6mを測る前方後円墳 ら石材を積んで塞ぐという作業を行てその通路の空間を、玄室の内側か も通路があり、石室完成間近になっ 主体とします。 された横穴式石室 と称される地域で、その北の入口に 相当する位置に6世紀前葉に築造さ 本拠としたのは曽我川流域の巨勢谷 ら大きな力を持つようになります。 石棺(二上山白色凝灰岩製) っています。この通路の目的は家形 っていて(図1)、玄室の奥壁側に この古墳の横穴式石室は少し変わ 巨勢氏はこの功績によりこの頃か (写真1) 大変合理的な構 の蓋を を内部

## 【参考文献】

えます。

事情によりますので問題はないと考 後の時代の天武天皇の八姓制定時の 勢男人は雀部男人と訂正されますが、

河上邦彦 『後・終末期古墳の研究』、 1995年、学生社

藤田 和尊



2012

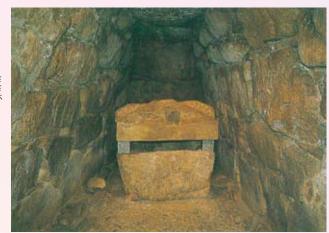


写真2 後続する市尾宮塚古墳の横穴式石室と家形石棺 (転載許可:高取町教育委員会)